

3) 防災に強い地域づくりの推進

沿岸地域の市町村では「地域防災計画」により海岸災害時の対応が計画されており、住民の防災意識・知識の普及や自主防災組織の指導・育成計画などが検討されています。渡島東沿岸では有珠山、駒ヶ岳に対する防災体制は強化されています。渡島東沿岸住民アンケート結果からは災害に対して不安を感じている住民が多く、避難場所を知らないという回答が約半数となっています。

表- 5-1.1 沿岸市町村の防災対策

市町村	地域防災計画	避難所	避難路	情報通報施設	防災・避難訓練	防災ハンドブック	備考
室蘭市	○	○	○				
伊達市	○	○			○		有珠山火山 防災マップ
洞爺湖町	○	○			○		〃
豊浦町	○	○	○				〃
長万部町	○	○	○			○	
八雲町	○	○					
森町	○	○	○	○	○		駒ヶ岳火山 防災ハンドブック
鹿部町	○	○		○	○		〃
函館市	○	○		○	○		〃

資料- 「地域防災計画」他(各市町村)

防災ハンドブックや防災マップなどを利用して住民の災害時の対応や防災意識・知識の向上を図っていくことが必要です。

津波からの避難



津波の特性と避難行動のポイント

- ！ 水辺からすぐに離れる**
津波注意報であっても水辺は危険。ただちに海岸や川べりから離れる。
 - ！ 津波の速度は速い**
津波の速度は非常に早く、目に見えてから逃げるのでは間に合わない。
 - ！ 避難したら戻らない**
到達予想時刻が過ぎたり、第一波が引いたとしても、津波警報・注意報が解除され安全が確認されるまでは避難を継続する。
 - ！ 津波は何度も来る**
津波は一度だけでなく複数回襲来し、後から来る津波の方が高くなることもある。
 - ！ 津波は場所により高くなる**
津波は沿岸に近づき水深が浅くなるほど、急激に高くなる。また、V字型の湾や岬の先端など、地形の影響で局所的に高くなる。
 - ！ 津波は速くからも来る**
津波は遠方の地震等によって発生することもある。日本近海の地震が伴わない津波警報・注意報にも注意する。
- (ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

8

図- 10 防災ハンドブック (津波)

資料- 長万部町防災ハンドブック (長万部町)

- ◆ 渡島東沿岸住民アンケートによると、「災害についてどのように感じていますか」では高潮・津波に対して約半数が不安であると感じています。

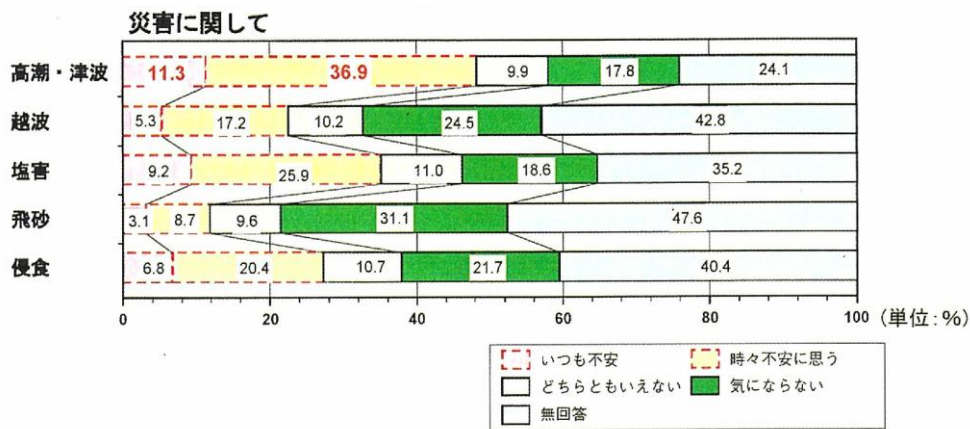


図- 11 災害についてどのように感じているか

資料- 渡島東沿岸住民アンケート (2000年12月)

- ◆ 渡島東沿岸住民アンケートによると、「海岸災害時の避難場所を知っていますか」では半数以上が避難場所を知らない状態にあります。
住民の防災知識の普及・啓発、地域の防災体制を強化することが必要です。

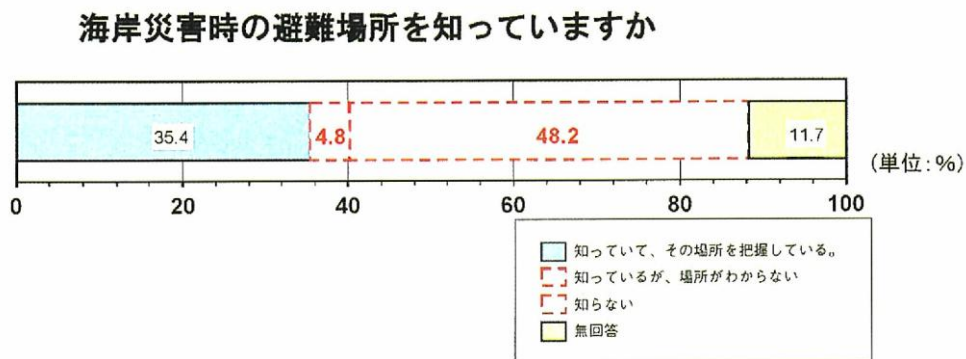


図- 12 災害時の避難場所を知っているか

資料- 渡島東沿岸住民アンケート (2000年12月)

5-2 海岸環境の現況と課題

1) 貴重な動植物の保護、身近な自然の保全・復元

- ◆ 海岸は砂浜にハマヒルガオやハイネズなどの海岸植生、断崖には海岸林などの海岸断崖植生が分布し、鳥や昆虫などの動物たちにとっても良好な生息空間となっています。近年、自然環境に配慮しない開発や砂浜への車両乗り入れ、海岸侵食などによって動植物の貴重な生息・自然環境が失われつつあります。
- ◆ 今後は貴重な動植物はもとより都市地域、漁村周辺の身近な自然に至るまで、自然機能がバランス良く維持されるように海岸自然環境への配慮が必要です。

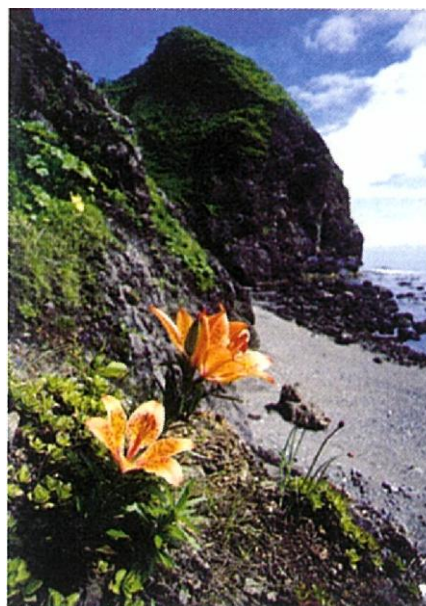


写真- 23 海岸植物 (ハマヒルガオとエゾスカシユリ)

◆ 渡島東沿岸の貴重な動植物



写真- 24 カクガン



写真- 25 ハイネズ

2) 自然環境・景観に配慮した施設整備の推進

◆ 渡島東沿岸住民アンケートによると、「利便施設等を整備していくことについて」では、ゴミ問題、景観や眺めに配慮した施設整備や自然環境と共生・活用する施設整備を進めることが期待されています。

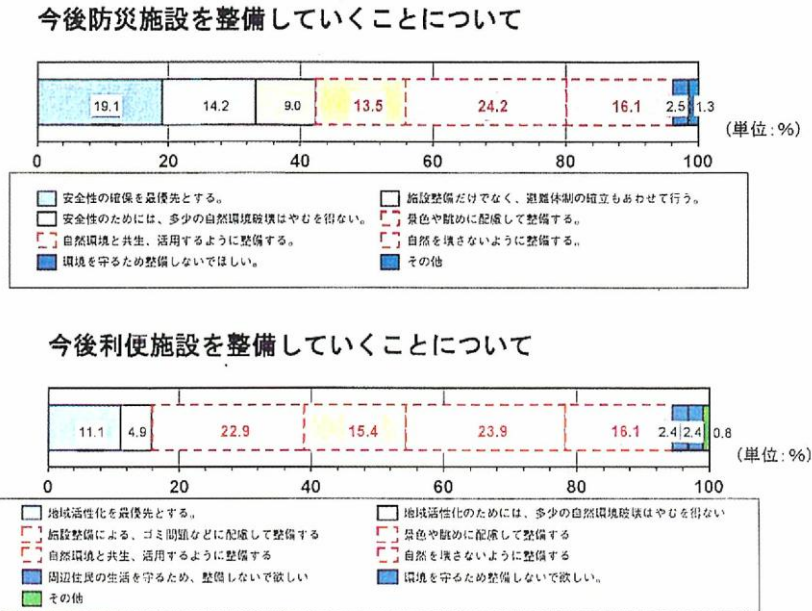


図-13 利便施設等を整備していくことについて

資料- 渡島東沿岸住民アンケート (2000年12月)

◆ 最近の海岸保全施設や観光・レクリエーション施設は住民の環境意識の向上と共に自然環境・景観に配慮した計画・整備がなされてきています。

◆ 今後も良好な海岸環境を創造していくため、関係機関と連携し、継続した環境調査、環境造成手法の開発・研究などを進めると共に自然環境・景観に配慮した保全・利便施設の整備を図ることが必要です。

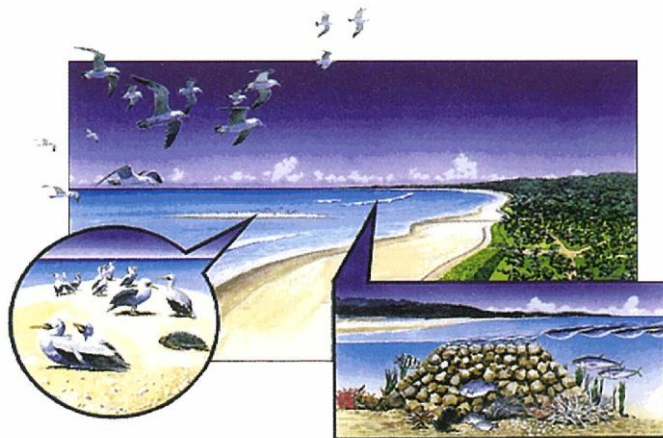


図-14 利便施設等を整備していくことについて

資料- 渡島東沿岸住民アンケート (2000年12月)

3) 海の森～藻場の保全・造成

- ◆ 海草・海藻が群落を形成する藻場は生物の餌場や棲息場となり、豊富で多様な海の生物を支え、水産資源の保全、海水や海底堆積物に対する浄化作用を持っています。海の生態系のバランス維持にとってとても貴重な藻場は近年大幅に減少しています。

海岸保全施設整備と共に海の草原や森にあたる藻場の保全・造成に取り組むことが必要です。

- ◆ 環境庁は第4回自然環境保全基本調査において平成元年度から平成3年度まで藻場の調査を行っており、前回の第2回基礎調査（昭和53年度調査）からの約13年間に全国で3.2%にあたる6,403haの藻場が消滅したと報告しています。「胆振」の消滅はありませんが「渡島」の消滅比率は実に7.7%となり、全国の沿岸を91海域に分けた集計によると消滅面積は全国の5.3%を占めています。とても深刻な状況であり、今後の藻場の保全・造成は重要な課題となります。

海岸保全施設整備と共に海の草原や森にあたる藻場の保全・造成への配慮が必要です。

表- 5-2.1 北海道の現存藻場及び消滅藻場面積総括表（海域別）

コード	海域	現存藻場 (ha)	消滅藻場 (ha)	消滅比率 (%)	消滅面積の全国割合 (%)
101	宗谷	6,100	258	4.1	4.0
102	網走	5,973	7	0.1	0.1
103	根室	6,072	3	0.0	0.0
104	釧路	10,263	0	0.0	0.0
105	十勝	236	36	13.2	0.6
106	日高	3,192	8	0.3	0.1
107	胆振	478	0	0.0	0.0
108	渡島	4,112	341	7.7	5.3
109	桧山	3,561	10	0.3	0.2
110	後志	1,159	198	14.6	3.1
111	石狩	585	4	0.7	0.1
112	留萌	1,481	108	6.8	1.7

資料- 「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(旧環境庁自然保護局) より抜粋

<調査方法：地形図、空中写真からの読み取り及び既存資料の収集>

第2回自然環境保全基礎調査：1978年度調査実施、昭和56年度発行

第4回自然環境保全基礎調査：1989～1992年度調査実施、平成7年度発行

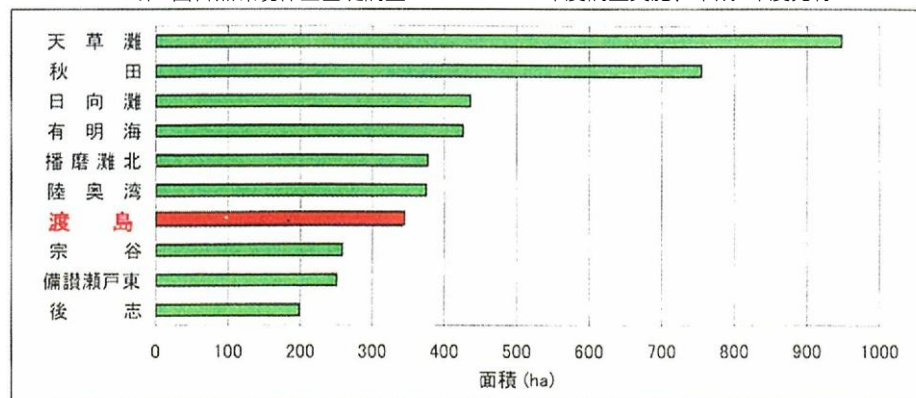


図- 15 海域別消滅藻場面積 (全国の上位10海域)

資料- 「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(旧環境庁自然保護局)



図-16 渡島東沿岸藻場分布図